10 LEADING COMPANY

日新バイオマス発電 株式会社

●バイオマス発電事業

バイオマス発電事業を通して、日本の山を活性化する

再生可能な、生物由来の有機性資源を意味する「バイオマス」。《日新バイオマス発電株式会社》は、木材からなる木質バイオマスを燃料としてタービンを回し、発電事業を行っている。

ゼロカーボン発電を実現 災害避難所への電気供給も

2013年、《株式会社日新》の100%子会社として設立し、2年後から発電をスタートさせた。年間に用いる燃料は8万トンで、その約50%が日新の工場から出る端材を活用。残り50%は地域から出る間伐材や未利用材を加工した木質チップが占める。年間4500万kwhの発電量は、境港市の約3分の2世帯の使用電力分にあたる。立ち上げから関わった藤原義史社長は、「木質は、数ある再生可能エネルギー資源の中でも安定的に供給・発電が可能な上、カーボンニュートラルな特性もある。事業を通して、日本の山を活性化させていきたい」と話す。

一日に使う木質チップは230トン。ボイラーに供給された木質チップは循環式水管ボイラーで燃焼されて、蒸気を発生する。その蒸気を利用して発電機を起動し、電力を発生させるという仕組みだ。常に一定の圧力に保たれるよう発電量を監視し、木質チップの供給量を調整して燃焼をコントロールする。

バイオマス発電の大きな特徴の一つが、燃焼エネルギーを用いるにも関わらず「ゼロカーボン」な点。木材の燃焼で発生するCO_2は、木が成長中に吸収した大気中のCO_2なので、木のライフサイクル全体で見ると大気中のCO_2は増えないというわけだ。藤原社長は、「太陽光や風力に比べ、気象条件に左右されないのも利点です」と話す。

25年3月に境港市と「災害時における電気の供給に関する協定」を締結し、災害時に当社で発電した電気を避難所に届けられる仕組みを整えた。「地域と連携し、地域に還元できる発電事業を続けていきたい」

1 年間4500万kwhを発電する最大出力5700kwの発電設備 2 木質チップを燃焼させて蒸気を発生。常用蒸気温度は453度にも上る 3 フィーダーでボイラーに木質チップを供給。年間8万トンが燃料として使われる 4「エネルギーの地産地消で地域に貢献したい」と話す藤原義史社長(前株式会社日新・専務取締役)

日新バイオマス発電株式会社

日新バイオマス発電 株式会社

創　業　平成25 (2013) 年6月7日
代表者　社長　藤原 義史
社員数　13名 (男13名　女0名)
本　社　鳥取県境港市西工業団地46-1

事業内容

木質チップを燃料としたバイオマス発電事業

勤務地(採用エリア)

境港市

採用区分

新卒採用　キャリア採用

インターンシップ・キャリア

無

採用担当者からあなたへ

「バイオマス発電」という言葉に興味を持った好奇心旺盛なあなたに向いている会社です!当社は境港市の約2/3世帯分の電力を発電する設備を運営しています。この仕事にやりがいや興味を持てる方、素直な方、意欲のある方をお待ちしています!

人事部
森口 海渡さん

採用に関するお問い合わせ先

0859-47-0303

公式サイトはこちら　リクナビはこちら　マイナビはこちら

エネルギーを支える“人の力”

日本の山や国土を守る カーボンニュートラル事業

高校の機械科でボイラーを学び、熱を生み出していく仕組みには関心を持っていたという長崎さん。就職活動時は発電所が稼働する1年前で、地元で始まる新たな事業に興味を抱き、門戸をたたいた。

現在は、主に制御室で設備全体の集中制御を担う。「制御室では、蒸気圧力を一定に保つために、燃料チップの供給量を調整して、燃焼をコントロールしています」。発電所の燃料には、合板製造の過程で出る端材やチップのほか、製品化できない原木を社員自ら機械でチップ加工したものなども使われる。

2025年からは、係長としてチームをまとめる役割が加わった。「チップの投入が早い人、単純作業が好きな人など、皆それぞれカラーが違うので、長所を伸ばせるサポートを心がけています」

また、カーボンニュートラルな事業に携わっていることを誇りに、日々の業務に励んでいる。「廃材や未利用材を活用し、山もきれいにする。すごいなって思います」

日新バイオマス発電株式会社
長崎 貴大さん(29)
2013年入社

溶接や玉掛けの資格も取得し、スキルアップを目指す

発電所の制御に注力したり、フォークリフトでの燃料投入を行ったり、燃料を自ら作ったりと、さまざまな業務がある同社の職場。

多城さんは、6階建てのボイラー棟内を毎日交代でパトロールし、異常を発見した際には即座に対応する。「過去には、チップを送り出すモーターのファンの羽根が一枚割れていたため冷却がうまくできず、モーターが熱くなっているのに気付いたことも。あわやボイラー停止を免れました。わずかな見逃しが大きなエラーにつながるので気が抜けません」

約2時間弱のパトロールに加え、原木からチップを作ったり、灰を取り除いたりと、発電所内のさまざまな業務を担当。「広い敷地内を歩き回るので体力がつきましたね」と笑う。

入社後に取得した2級ボイラー技士に加え、今後はアーク溶接や玉掛けの資格取得も目指している。「頑張ればスキルアップでき、業務にも生かせるのでやりがいを感じます。資格を取ってできることをどんどん増やしていきたいです」

日新バイオマス発電株式会社
多城 嘉騎さん(22)
2021年入社